

現行の保護林モニタリング調査マニュアルにおける調査項目等

区分	保全・管理の基準		指標	調査項目（調査項目：細項目）	
1. 森林生態系保護地域	広範囲な森林の保全・管理	・原生的な天然林が広範囲に保全されている	・原生的な天然林の面積 ・林分（人工林・天然林、林齢階等）の構成	(①基礎調査) ・資料調査：既存資料の収集、整理 ・保護林情報図の作成：森林調査簿、施業実施計画図等から作成 ・概況調査：現地概況の把握、現地写真の撮影・入手 (②現地調査) ・森林調査：毎木調査、植生調査、定点写真の撮影、植物相調査 ・動物調査：哺乳類、鳥類、昆虫類の生息状況調査 ・利用動態調査：利用者数、利用実態の調査、 <u>定点写真の撮影</u>	
2. 森林生物遺伝資源保存林		・森林生態系の健全性が保たれている ・適正な保全、利用が図られている	・植物の生育状況（既存資料より調査の対象地域を限定） ・希少動植物の生息生育の有無 ・動物の生息状況 ・利用動態		
3. 林木遺伝資源保存林	特定の対象の保全・管理	・保存対象樹種が健全に生育し、その遺伝資源が保存されている	・保存対象樹種の個体数、生育密度（遺伝子分析は除く） ・周辺森林、土地利用の状況変化	(①基礎調査) ・資料調査：既存資料の収集、整理 ・保護林情報図の作成：森林調査簿、施業実施計画図等から作成 ・概況調査：現地概況の把握、現地写真の撮影・入手 (②現地調査) ・森林調査：毎木調査、植生調査、定点写真の撮影、植物相調査	
4. 植物群落保護林		・保護対象の植物群落が健全に生育している	・保護対象群落の生育状況 ・周辺森林、土地利用の状況変化		
5. 特定動物生息地保護林		・保護対象動物種が健全に生息している ・保護対象動物種の繁殖地又は生息地の環境が保全されている	・保護対象動物種の生息状況 ・保護対象動物種の生息環境の状況 ・周辺森林、土地利用の状況変化		(①基礎調査) ・資料調査：既存資料の収集、整理 ・保護林情報図の作成：森林調査簿、施業実施計画図等から作成 ・概況調査：現地概況の把握、現地写真の撮影・入手 (②現地調査) ・動物調査：対象動物種の生息状況調査、関連動物の調査 ・森林調査：毎木調査、植生調査、対象動物種の食草調査
6. 特定地理等保護林		・特異な地形、地質等の保全が図られている	・周辺森林、土地利用の状況変化 ・利用動態		(①基礎調査) ・資料調査：既存資料の収集、整理 ・保護林情報図の作成：森林調査簿、施業実施計画図等から作成 ・概況調査：現地概況の把握、現地写真の撮影・入手 (②現地調査) ・利用動態調査：利用者数、利用実態の調査、 <u>定点写真の撮影</u>
7. 郷土の森		・地域における象徴としての森林が健全に保全されている	・林分（人工林・天然林、林齢階等）の構成 ・周辺森林、土地利用の状況変化 ・利用動態		(①基礎調査) ・資料調査：既存資料の収集、整理 ・保護林情報図の作成：森林調査簿、施業実施計画図等から作成 ・概況調査：現地概況の把握、現地写真の撮影・入手 (②現地調査) ・森林調査：植物相調査 ・動物調査：哺乳類、鳥類、昆虫類等の生息状況調査 ・利用動態調査：利用者数、 <u>利用実態の調査</u> 、 <u>定点写真の撮影</u>

注1) (①基礎調査) (②現地調査) の調査項目のうち、ゴシック体は必須項目、明朝体は選択項目を表す。

注2) 「選択」とされている項目を選んだ場合に必須となる細項目についてアンダーラインを付した。

注3) 保護林区分ごとの (②現地調査) に関する項目の選択方針は、森林生態系保護地域及び森林生物遺伝資源保存林においては、森林調査を必須項目とし、動物調査と利用動態調査のいずれか選択、最低2項目を調査する。その他の区分の保護林においては、最低1項目を必須項目とする。

注4) 森林生態系保護地域、森林生物遺伝資源保存林、郷土の森において、動物調査を選択した場合は、哺乳類調査と鳥類調査のいずれかを必須の細項目とする。

注5) (②現地調査) に関する調査項目や細項目は、記載されたもの以外についても保護林の状況に応じ追加できる。